

**SERVE TO
CHANGE LIVES**

TOKYO WEEKLY

Rotary
Club of Tokyo



RI D2580

絆

Rm. 908, Marunouchi Bldg. 9F, 2-4-1, Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-6309 E-mail : tokyo-rc@nifty.com

President: Yoichiro Kojima Secretary: Akira Kokubu Tel : 03-3201-3888 Fax : 03-3201-3413

千代田6クラブ合同例会 障害者雇用から見るダイバーシティの意義

津田塾大学

客員教授 村木 厚子 氏

Ms. Atsuko Muraki

1978年に労働省に入ってから以来、労働問題を担当し、20年経った頃に障害者雇用対策課長になって初めて障害者の問題に出会いました。

それまで障害のある人との接点がなく、「こんなこと言ったら差別だと言われるのではないか。相手を傷つけるのではないか」といったことが頭を駆け巡り、何もできないような気分になりました。

そうした私を救ったのが、障害者をたくさん雇っている企業の社長さんの一言でした。「社員の良いところを見つけて、それを引き出して、会社のために働いてもらって良い業績を生み出すのが社長の仕事。社員という意味では、障害があってもなくても同じだ」と言われました。それは労働者も同じだと思えるようになり、面白いと思いつつ、障害者雇用の仕事をしました。

その後、厚生省と合併し厚生労働省になっ



たことで、福祉の事業所を訪問して、とても驚きました。私は企業で働く障害者にたくさん会ってきましたが、それよりも障害の軽そうな人が福祉施設にいるのです。障害者団体の幹部に、「企業で働けそうな人が福祉施設に通っているような気がするのですが、間違っていますか」と聞くと、「福祉施設にいる障害者のうち9割は働けると思っている」と教えてくれました。私は張り切って、「障害のある人も働けますよ」と言うようになりました。

ある時、特別支援学校を卒業し就職する年齢に近くなったお子さんを持つ親御さんの集まりで、「福祉施設だけではなく、企業もお子さんの進路として考えてください」と熱弁を振るいました。帰ろうとすると、1人のお母さんに、「この話をうちの子が小学校一年生の時に聞いたかった」と言われました。

労働や雇用は、企業の頑張りが必要ですが、教育、親御さんや社会全体の意識も変えるように取り組まなくてはいけないとわかりました。

そんな時に、とてもショックな言葉を耳にしました。脊椎損傷のために車椅子に乗り、パラスポーツの水泳選手でもあり、車椅子を輸入する会社を営む山崎康弘さんに講演してもらったと、「僕はアメリカで障害者になって良かった」と言ったのです。

彼はボストンで怪我をして病院に運び込まれ、手術の翌朝、お医者さんがこう言ったそうです。「あなたはもうずっと歩けないけれど今まで持っていた夢をあきらめなくていい。その夢を実現する方法がちょっと変わります」。その言葉によって、彼は頑張ることができた。でも、帰国し、車椅子を輸入して自分と同じような人のために頑張ろうと病院や

第4771回例会

本日のプログラム

4月13日(水)

「どこへ向かう岸田政権」

日本経済新聞社

論説フェロー 芹川 洋一 氏

【例会中は携帯電話の電源をお切り下さい】

福祉施設に行くと、日本のお医者さんは自分と同じような患者さんに、「早く障害を受け入れて、新たな目標を考え直さない」と言っていたのです。

そして、彼が見せてくれたのが「立てる車椅子」の写真です。車椅子に座りスイッチを入れると座面が持ち上がり、胸やお腹をベルトでしっかり支えるので、立った姿勢になれる。歯科医や美容師など立って仕事をする人のためのものでした。日本では、車椅子で乗りやすいバスや電車も少し増え、町中で車椅子の人を見かけるようになりましたが、車椅子の美容師や歯科医を見たことはありません。脊椎損傷という医学的には同じ障害でも、社会によってその人の暮らしは違ってきます。社会がその人のためにどのような準備ができるかが大事なのだと気づきました。

障害がある人たちは自身は、ほとんどの人が活躍をしたいと思っています。

10年ほど前、内閣府で障害者基本法を改正する作業をしていました。改正内容を検討するメンバーの半分ぐらいが障害のある人で、当事者が議論に加わるのはまだ珍しい時期でした。それまでは「障害者の福祉の増進」がこの基本法のキーコンセプトで、条文に何回もその言葉が出てきます。障害のある人たちがこの言葉をこの法律から全部削りたいと言いはじめました。

「障害者の福祉は増進してほしい。でも、それを繰り返し言うと、障害者は福祉のお世話になって暮らす人なのだとみんなが思うかもしれない。私たちは障害のない人と共にこの社会を支える仲間だということを知ってほしい」

その言葉を削ることになり、条文には「共生」という言葉を入れました。このように活躍をしたいという障害のある人の思いと社会がうまく出会えば、障害者の活躍は進むと信じています。

日本の障害者雇用政策は、障害者雇用対策法という法律で障害者雇用率を決めています。現在、民間企業の法定雇用率は2.3%（2021年3月1日から2.2%⇒2.3%へ引き上げ）で、雇用者数も雇用率も皆様のお陰でどんどん上がり、去年の雇用率は2.2%まで来ました。

私は、「障害者雇用率は達成のための数合わせになっていないか」という批判に、こう答えます。

「障害者雇用率は宿題です。勉強を好きじゃない小学生の頃は学校から宿題が出て、子供は勉強する。勉強していくうちに勉強の面白さや楽しさ、必要性を理解していき、宿題がなくてもやってくれる。雇用率もそういう

世界に行ってほしい」

実は、日本の障害者雇用で有名な企業には、昔、宿題をやっていなくて労働省に叱られた企業がたくさんあります。コンプライアンスの観点から障害者雇用を始めてみると、面白くてしょうがなくなるのです。障害者の力や社員に与えるいい影響などの発見が続き、はまってくださる。日本IBMをはじめとする大手企業の経営者たちが、企業における障害者雇用のあり方、今後の進むべき道について議論を重ね、勉強会から一般社団法人「企業アクセシビリティ・コンソーシアム（ACE）」を作り、障害者雇用を進める企業のノウハウを集めています。

「社員のいいところ、強いところを見つける」という言葉は障害者のみならず人材活用のキーワードです。アメリカの企業では「ストレングス・ファインディング」と呼び、それを用いて全社員の雇用管理を行っている企業がたくさんあります。人間の能力を34の資質に分け、どれが優れているかを分析し、その人の強みが生きるポジションに配置します。

障害者雇用の意味を説明するとき、私は著名な経済学者リカードが提唱した「比較優位」を使うこともあります。途上国が農業を得意とするならば農業をやってもらい、先進国は工業をやって貿易をするとどちらの国も得をするという理論です。

浜松市に京丸園という農園があります。400年続く農家で、20数年前、農場主の鈴木さんのところに特別支援学校の先生が生徒を雇ってほしいとやってきたのをきっかけに、次の年から卒業生を一人ずつ雇い始めました。障害のある人に働いてもらうために重労働で熟練が必要な作業を誰でもできる作業に変える努力をしました。毎年雇用を増やしました。日本の農業の問題は規模が小さいことと跡継ぎがないことです。京丸園は人手がたくさんあるため、跡継ぎのいなくなった周りの農家が農地を任せようになり、手のかかる作物を作ることで付加価値が上がり、経営が安定しました。集まった農地に対して人手が足りなくなると、企業の手を借りました。

特例子会社という、障害のある人をたくさん雇うために特別に子会社を作る仕組みを使って、IT企業がヒナリという特例子会社を設立。農作業をこの会社に依頼しました。ヒナリ社は、良好な労働環境作りに力を入れました。ハウスは暑いものですが、従業員を働かせる環境としては駄目だと、ハウスに2000万円のミストを入れました。すると、野菜の生育にもいい影響が出て、年間12回の収穫が13回に増えたのです。

京丸園は、近隣のやる気のある若い後継者がいる農家に全部ノウハウを教えました。そして、このヒナリ社は、他の農家の仕事もするようになりました。そうすると、浜松に、「ユニバーサル農業」と呼ばれる経営が良く若い人が後を継ぎたいと思う農業が始まり、市役所や教育関係者はじめみんながこの農業を良いものにしようとしています。浜松の農業が変わるところまで行きました。

それまでのルールを当然のこととして共有してきたメンバーだけでやるのではなく、「どうしてそうなのですか。これじゃ駄目ですか」と言ってくれる人を取り込んでいくことが、ダイバーシティの価値だと思います。女性、外国人もそうです。障害のある人は、とりわけ大きな変革を呼んでくれます。

私はカナダのトルドー首相が以前、ダボス会議で言った言葉が好きです。「今ほど変化のペースが速い時代は過去にはなかった。だが、今後、今ほど変化が遅い時代も二度と来ないだろう」。農業だけではなく他の産業も激変にさらされていきます。そのとき、日本は果たして生き残れるのかという問題意識、不安を誰もが持っています。

OECD東京事務所長の村上由美子さんがそれについて解説してくれました。

日本には2つのアドバンテージがあります。

1つは、日本は失業率が低いと、技術が激変するとき新しい技術を入れても失業のリスクが少ない。つまり新しい技術についていきやすい社会なのです。特に若い人の失業が少ないことが、1つ目のアドバンテージです。

これからAIが何でもやると言われています。AIが苦手なことは読解力と数的思考力と言っていますが、OECDの成人の中で日本はこの能力でナンバー1で、女性が点数を引き上げています。これが2つ目です。

でも、今のところ日本発の新しい商品・サービスは全然生まれていません。3つの分野でOECD加盟国の平均と日本の科学技術及びイノベーションシステムを比較したのを見ると、ICT技術の水準、イノベーションスキルの2つで日本は平均よりもいい。日本が弱いのは違う文化・出自の人たちと協働する作業で、新しい人を積極的に迎えて違うメンバーと一緒に仕事をすることを覚えれば、日本はとても良い国になれるという結論でした。

最後に私が大好きな言葉を贈ります。「風土は土の人と風の人を作る」。土の人とはその分野で長く努力をしてきた人たちで、風の人とはニューカマーで、両者で一緒になって風土を作る。新しい化学変化を作っていけば、この社会はもっと豊かで優しく強くなります。

観桜会開催

3月の最後の水曜日、夕刻より空海主催の観桜会が、3年ぶりに会場を小坂文乃会員の日比谷松本楼に移して開催されました。



岡崎代表世話人より、空海のはじまり（津村元会長の頃に美味しいものを食べようという趣旨で始まり、食う会では？という事で空海になった事など）と会場主の小坂文乃会員のご紹介。ご参加のご長老会員（92歳の津島会員、86歳の村本会員、84歳の小坂敬会員）をご紹介し、小坂文乃会員ご提供の桜色のシャンパンで津島会員に乾杯をお願いし、お味も量も申し分ない素晴らしいフルコースのディナーの開始となりました。

デザートとなり、今年は余興に替わり世話人指名によるショートスピーチを「コロナに翻弄された会長」という事で小島会長、濱口直前会長、竹中前々会長のお三方にお願いしました。三会長からは、コロナ禍に於ける例会運営のご苦勞話をそれぞれご披露いただきました。

次に水野元会長、久しぶりにご参加頂いた武藤会員からは「オリンピックについてのお話」とコロナ禍に於ける東京開催のご苦勞話を拝聴し、最後に本年度入会会員2名（村田誉之会員、白田真人会員）による自己紹介をお願いしました。湯木世話人の中締め挨拶で8時ちょうどに閉会となりました。

昨年10月の創立記念例会以来、久々の夜の集まりという事で、会員31名、ご家族25名と大勢の皆様にお集まりいただきました。来年も3月最終週の水曜日に観桜会を開催致しますので、ご予約のほどお願い致します。

空海 世話人 木村平右衛門



4月理事会議事録

2022年4月6日(水) 11:30 ~ 12:00

- ・3月会計報告
- ・4月ロータリーレート 1ドル=122円
- ・会員状況報告 4月1日現在
会員数335名(期初比-3名)
3月の入会者0名(累計6名)
3月の退会者0名(累計9名)
- ・コーディネーターニュース4月号
- ・米山梅吉記念館 春季例祭
4月23日(土) 14:00
講師: 静岡県富士山世界遺産センター館長
元文部科学大臣 遠山教子君
演題: 「富士山と日本人」
出席者: 加藤丈夫 米山梅吉記念館副理事長
小島会長、小西国際奉仕理事、
後藤米山委員長
ニコニコ2万円持参することを承認
- ・第2回クラブフォーラム
4月27日(水)13:40~ 於: 4階 桜の間
テーマ 「RIの未来構想を考える」
出席予定者: 37名
- ・ウクライナの支援に関して情報提供のお願い
ガバナーより情報収集のためウクライナ及び
近隣諸国と関係する会員がいるかの調査依頼
- ・ウクライナへの支援金の寄付先について
当初の予定通りロータリー財団の災害救援基
金へ150万円の寄付を承認
4/4現在の寄付額: 132件/149万2千円
不足分はニコニコより支出
- ・支援金の会員への報告方法について
現状は理事会で報告のうえ、週報の理事会議
事録に掲載している
件数・金額・寄付先など詳細について全会員
に報告した方が良いとのご意見あり
- ・新入会員候補者3名承認
- ・会員増強の現状報告
- ・クレジットカード・電子マネー決済の導入につ
いて
次年度以降、ニコニコの寄付とビジターフィ
ーの支払について導入することを承認
- ・花水木見学会
4月20日(水) 例会後
参加者: 会員12名 家族1名 合計13名
お花見団子・お茶は無し バスは1台とする

- ・CO2モニター贈呈式について
各区の出席者が決定
4月13日に社会奉仕委員会を開催し、委員
の出席を募る
マスコミ対応として、東京都庁記者クラブに
プレスリリースを投げ込み予定
- ・クールビズ期間
従来5月から9月までであったが、10月ま
でとすることで承認

* - * - * - * - * - * - * - * - * - *

ゴルフ同好会大会報告

第125回ゴルフ同好会大会が、令和4年4月5日(火)に程ヶ谷カントリー倶楽部に於いて、曇りのち晴れの天気で風がやや強い中、22名の参加を得て行われました。

懇親会はコロナウイルス対策で、大会場にてワンプレート料理、間隔を空けたテーブル、短時間開催で行われました。

優勝は中屋昌太君で、上位の成績は下記の通りです。(ハンデはオフィシャル)。

| (氏名) | (OUT) | (IN) | (GROSS) | (HDCP) | (NET) |
|-----------|-------|------|---------|--------|-------|
| 優勝 中屋昌太 | 45 | 42 | 87 | 16.8 | 70.2 |
| 2位 野原数生 | 39 | 40 | 79 | 7 | 72 |
| 3位 江幡哲也 | 45 | 45 | 90 | 18 | 72 |
| 4位 大野 裕 | 50 | 50 | 100 | 26 | 74 |
| 5位 柏原孫左衛門 | 46 | 42 | 88 | 14 | 74 |

次回は、令和4年10月13日(木)を予定しておりますので、多数のご参加をお待ちしています。

ゴルフ同好会 幹事



* - * - * - * - * - * - * - * - * - *

4月13日以降の例会場について

暫く「富士の間」や「孔雀の間」で例会を開催していましたが、4月13日からは当面通常通り中2階の「光の間」で開催いたします。それに伴い1テーブル6人掛けとさせていただきます。

今後も広い会場に空きが出た場合は、直前でも例会場を変更いたします。

引き続き感染対策に努めて参りますので、ご了承のほどお願いいたします。

千代田6クラブ合同例会



例年は中央分区分区インターシティミーティングが開催されますが、本年度はそれに替わる試みとして、初めて千代田6クラブ（東京・東京神田・東京麹町・東京紀尾井町・東京お茶の水・東京丸の内）による合同例会が開催され、当クラブがホストを務めました。

千代田5クラブからは、117名のビジターの皆様にご出席いただき、他クラブのビジタ

一、ゲストを含め、総勢266名での例会となりました。

今回は食数確定のため、会員の皆様には事前に出欠のご連絡にご協力をいただき、ありがとうございました。

受付やご案内でご活躍いただきましたSAA、親睦委員の皆様、各テーブルでご対応いただきました会員の皆様に感謝いたします。

ニコニコボックス Donations

- ・東京麹町RC 若林英博ガバナーより
小島会長お世話になります。牛島G補佐
ありがとうございます。
- ・東京麹町RC 荘村明彦会長より
合同例会開催おめでとうございます。お
世話になります。
- ・東京麹町RC 新保雅敏氏より
合同例会楽しみにしております。よろし
くお願いします。
- ・東京麹町RC 飯嶋一晃氏より
本日の合同例会よろしく願います。
- ・東京紀尾井町RC 三村智恵子会長より
今日は初めての千代田6クラブ合同例会
です。とても楽しみです。
- ・東京紀尾井町RC 茨田浩之幹事より
東京ロータリー様、本日お世話になります。
- ・東京紀尾井町RC
西岡孝志氏、橋本吉弘氏、浅見亨氏より
本日のすばらしい企画を感謝します。
- ・東京紀尾井町RC 西脇修氏より
中央分区RCの一層の発展を祈ります。
- ・東京紀尾井町RC 石川ヒロ子氏より
千代田の皆さま、よろしく願ひ致します。
- ・東京丸の内RC 古山真紀子会長他4名様より
本日はありがとうございます。一同楽し
みにまいりました。

例会記録 Weekly Meeting Report

会員数 Membership
4月6日 会員数：335名

ビジター Visitors
国内119名

ゲスト Guests
卓話者 村木厚子氏 (林克昌君)
国内1名

お誕生祝 Happy Birthday
原 良也君 - 4月3日
三木繁光君 - 4月4日
上原 明君 - 4月5日
岡田明重君 - 4月9日



E-mail アドレス
tokyo-rc@nifty.com

理事会・委員会開催予定 Board & Committee Meetings Schedule

社会奉仕 4月13日(水) 13:30 於：待合室
チャレンジ100 4月20日(水) 11:45 於：待合室
職業分類選考 4月20日(水) 13:30 於：待合室

花水木の会
4月20日(水) 例会後 於：北の丸公園
第2回クラブフォーラム
4月27日(水) 13:40 於：4階 桜の間
定例理事会
5月11日(水) 11:30 於：2階 蘭の間
次年度クラブ協議会
5月11日(水) 13:40 於：2階 牡丹の間
国際大会
6月4日(土)~6月8日(水) 於：ヒューストン

例会および卓話プログラム Weekly Meetings & Table Speeches

次週のプログラム

4月20日 (水)

Family Day

「ヤングケアラーの理解と支援のために」

(一社)日本ケアラー連盟

代表理事 牧野史子氏

社会奉仕見学会 花水木の会

例会後 北の丸公園にて

4月27日 (水)
「ロータリーの未来を思い描く」
国際ロータリー理事
辰野(株)

代表取締役会長 辰野克彦氏

5月4日 (水)
例会休会

5月11日 (水)
青少年奉仕例会
(株)ジャパンタイムズ
代表取締役会長兼社長 末松美奈子氏

ホームページの URL
http://www.tokyo-rc.gr.jp

クラブ会報委員会

委員・長 谷義一
副委員長 入交太郎・中澤関男
委員 足立直樹・廣瀬慶太郎・稲山孝英・井上善雄・神尾友信・前川磐
三吉廣明・中村正己・大野裕・尾関竜太郎・高橋明・塚本隆史
吉田健一